

会議結果報告書

- 1 会議の名称
令和5年度第3回柳井市立図書館協議会会議
- 2 開催日時
令和6年1月8日（祝・月）10時～12時00分
- 3 開催場所
柳井市立柳井図書館2階視聴覚室
- 4 出席者
9名（欠席 0名）
- 5 公開・非公開の別
公開（傍聴人 0人）

- 6 会議の議事録（要旨）

- (1) 開会

- (2) 柳井図書館長あいさつ

- (3) 協議事項

- (1) 図書館サポーター制度運用について

- (事務局)

図書館サポーター制度運用 事務局（案）について説明

先般、サポーターの募集を行い56名の応募をいただいた。その内、学生が9名となっている。大多数が女性で、男性の応募は一桁となっている。基本方針は、あくまでもボランティアであり無報酬で参加していただくため、なるべく義務的にならないような取組にしたいと考えている。

サポーターについては、ボランティア保険への加入を計画している。サポーターの参加は、保険適用のため前日までに電話等で知らせていただきたい。また、名札の着用は、義務としたい。

サポーターの扱いについては、一般と学生で分けることとしたい。

現在、読み聞かせサポーターについては、29名の申込みを受けている。

運用については、4人程度の体制で約30分の読み聞かせを行っていただくように考

えている。

幼児と児童では、本の内容が変わるのではないかと指摘があったため、第1日曜日と第3日曜日の実施を想定している。

義務的にはしたくないが、図書館で割振りして年間スケジュールを作成する必要があると考えている。選書は、事前にサポーターにて選んでいただくようにしたい。

施設案内については、16名の応募をいただいている。自動貸出機などの機器の利用案内や授乳室などの施設案内のサポートをお願いしたい。

実施日は、特に日にちを設定しないよう考えている。できれば、開館当初は、土日祝日の混雑が予想されるため、その曜日のサポートをお願いしたいと思う。

参加形態については、割り当てではなく、サポーター自身のタイミングで気軽にご参加していただきたい。

次に、返却本配架のサポーターについて36名の応募をいただいている。内容は、純粋に返却本を書棚に戻してもらおうサポーターである。こちらも、サポーター自身のタイミングで参加していただきたいと考えている。

返却本が多い曜日については、土日の午後からと火曜日の開館前が多いと予想されるため、このタイミングで支援いただけるとありがたいと思う。

続いて、子ども見守りと学習支援は、同じ条件で募集をかけたものの、この2つを分けて考える方もいらっしゃるので分けて考えたいと思う。応募は18名となっているが、学習支援と子ども見守りについては説明会の中で確認していきたい。

子ども見守りについては、放課後や土日を中心に子ども書架エリアや学習室、子育て家庭の見守りをしつつ、司書へのつなぎなどを行っていただきたいと考えている。

こちらもサポーター自身のタイミングで自由に参加していただきたい。

一方、学習支援については、民業圧迫の観点もあり大々的に行う予定はなく、夏休みの期間中の土日に宿題支援として定期的な開催を予定している。具体的なイベントの計画については、学習支援のサポーターと協議していきたい。

イベント運営のサポーターについては22名の応募をいただいている。こちらは、図書館主催のイベントへの参画をしてお手伝いいただきたいと考えている。

実施日は、イベント開催時であり、ここにサポートの依頼をしていきたい。

図書館美化のサポーターについては、20名の応募をいただいている。内容は、イベント時の清掃活動や、夏場の除草作業についてのサポートとなる。

開催日は、イベント開催時や、雑草が伸びる夏場の午前中等、個々に依頼していきたい。

説明会については、2月8日と11日に開催したいと考えている。

学生サポーターについては、活動のタイミングが長期休みであったり、土日であったりと一般の方と対応が異なるため、説明会も別に開催したいと考えており、別に計画していきたいと考えている。

最後に、研修については、引越後、書棚に本が入り、機器も揃った5月から6月にかけての開催を考えている。

遵守事項については、以前の会議と同じ内容である。

その他の事項について、今後の図書資料の移転スケジュールについて説明したい。

柳井図書館は令和6年3月25日から閉館する。4月上旬から中旬にかけて図書資料の移転を行う。

みどりが丘図書館の開館については、外構工事の進捗を見ながら、夏休みまでの開館を目指していく。

閉館後の資料の取扱いについて説明したい。

図書館システムの移行作業について3月25日から3月31日で行う。この期間については、図書館ホームページの検索や予約などができず、この期間の図書館サービスは、いったん両館とも停止する。大畠図書館も休館となる。

4月1日から、新たな図書館ホームページが稼働となる。

ただし、大畠図書館は、4月1日が月曜日のため4月2日からの開館となる。

柳井図書館については、図書館サービスは停止だが、ホームページは閲覧できるため、柳井図書館の図書のWEB予約は可能となる。

ただし、予約された柳井図書館の本の貸出については、貸出は待ってもらう。

また、柳井図書館の新刊雑誌は大畠図書館に設置する。

他館から借り受けた本の貸出・返却は、大畠図書館で行う。

5月1日から、WEB予約された柳井図書館の本の貸出を大畠図書館で行う。

また、3月24日までに借りた柳井図書館の返却については、4月7日までは、柳井図書館の返却ポストへの返却は可能となる。

また、返却本の配架サポーターについて、4月に移転を行うが、その際に返却本のサポーターに登録された方に粗配架のお手伝いのご案内をしたいと考えている。

そして、粗配架については中学生ボランティアへの協力依頼も考えている。

こちらも、粗配架の日程が決まり次第、各学校に協力依頼を行っていききたい。

(会長)

では、各委員からの意見を聞きたいと思う。

(委員)

ボランティア保険について、前日までに連絡となっているが、1年分の保険をかけるのではないかと。

(事務局)

保険については1年分をかけるが、保険適用の確認のため、連絡をいただくようにしたいと思う。

(委員)

自由参加の時にはどうすればいいのか。

(事務局)

その際にも連絡いただきたい。

(委員)

その日に時間が空いたから、サポーターに行ってみようと思ってもダメなのか。

(事務局)

原則は前日までであるが、当日、今から行きますという連絡をいただいても構わない。

(委員)

図書館としては、何名ぐらいのサポーターが必要か決めているのか。

(会長)

サポーターの種類によって、何名程度必要か違ってくると思う。

保険については、図書館としては年単位でかけているが、ボランティアに参加する際には、保険適用のため原則前日までに連絡してほしいということではないか。

(委員)

注意事項として、連絡なしの場合の事故は保険対象にならないということではないか。

(事務局)

ならない可能性がある。

(会長)

保険のルールについては、説明会時に説明していただくことではないか。

(事務局)

そのように対応する。

(会長)

それでは、次に移りたいと思う。

(委員)

名札について、前からでないか確認できない。もっと目印になるようにならないか。腕章や、ネッカチーフなど、どこから見てもスタッフと分かるほうがいいのではないか。

(会長)

図書館の職員はエプロン着用か。

(事務局)

その予定である。

(委員)

サポーターが、各自でスタッフ用の服の代金を負担したら自覚が出てくるかなと思う。

(事務局)

募集のタイミングでそのことを伝えていないので難しいと思う。

(委員)

腕章は、半そでの時に困るので、名札を工夫して後ろからでも分かるようすればいいのではないか。

(委員)

サポーターも毎日いるわけではないと思う。まずはカウンターに聞きに行くと思う。サポーターの服装は各自に任せて、名札でいいのではないか。

読み聞かせの人については、エプロンを着用してもいいと思う。

(事務局)

施設案内については、機器がサービスカウンターの周りに設置されているので、カウンター周りでの作業となると思う。

(会長)

とりあえず、サポーターについては、後ろからも分かるよう工夫して、名札を着用することによいか。

(事務局)

そのように対応する。

(委員)

利用者への声掛けの際に、サポーターということが分かれば良いと思うので、名札でいいと思う。

(会長)

読み聞かせサポーターの件でなにか意見があるか？

(委員)

毎月、第1日曜日と第3日曜日とあるが、子育て世代の方については、平日でも子育てしているので、平日もできるようにしたらいいと思う。

(事務局)

そのような体制ができたらいと思う。ただ、平日の日中には、子どもがいない場合も想定されるため、どのような運用ができるのか。

(委員)

新しく開館するのだから、来館してもらうためにどのようにすればいいかが重要だと思う。たとえ子供がいなくても、いつでも読み聞かせができるように、おはなしの部屋で待機することは全然大丈夫だと思う。

(委員)

子ども見守りサポーターと連携して行えばいいのではないかな。

(委員)

子どもを見守りながら、読み聞かせが出来るようなら読んであげてもいいのかなと思う。

(事務局)

では、日にちを決めずに自由参加でよいか。子どもがいないときのことを想定していたが、変更したいと思う。

(会長)

読み聞かせについては、自由に行うように考えていた。

(委員)

定期的な読み聞かせも必要だと思う。

せっかくおはなしの部屋があるのだから、そこに行けばいつでも誰かがいるような状況が望ましいと思う。

(会長)

説明会の時に、読み聞かせについては定期的なものと随時的なものがあるように説明したらいいのではないか。

(事務局)

義務的にはしたくないが、読み聞かせについては随時的な開催を想定していなかった。活動日を割り当てても、揃わないケースも出てくるかもしれないし、活動の場がない方が出てくるかもしれない。

(委員)

定期的なものを残し、自由にできる日も設けておけばいいと思う。

(会長)

児童と幼児は分けなくてもいいと思う。

(委員)

対象としては、大人も読み聞かせに参加してもいいと思う。

(事務局)

では、基本的には自由参加とし、月に1回程度は定期的な開催を行うようにしたいと思う。

(会長)

委員の意見を集約すると、平日に自由に読み聞かせを行う場合と、サポーターの読み聞かせを行う日を設けて、館内のアナウンスにより開催する場合の2つのパターンにて行うようにしたらいいのではないかということになる。

(事務局)

自由参加については、平日に限らず土日も含めることでよいか。

(会長)

いいと思う。そのように提案したらいいと思う。

(事務局)

では、読み聞かせについては、施設案内のような参加形態を加えることとし、定期的な開催も行うよう提案したい。

毎月1回程度とし、対象も児童や幼児に限らず読み聞かせを行うよう提案する。

(会長)

施設案内について意見を伺いたい。

(会長)

書架の説明は微妙かなと思う。

(事務局)

書架の説明は、エリアの案内をするように考えている。

(会長)

本の場所を求められた場合の対応は、説明するのか司書に繋ぐのか、どのように考えているか。

(事務局)

分類番号ぐらいなら、そこの書架へ案内してもいいと思うが、細かなことの質問になると、司書に繋ぐようにしてもらいたい。

(委員)

検索機への案内でもいいか。

(事務局)

それはいいと思う。

(会長)

自由参加というのが気になる。

(委員)

カウンターに、本日の出席サポーター一覧があれば、出席状況が分かるのではないか。

(委員)

一応割り振りがあり、その中で行ける日には電話して行くようにできたらいいと思う。

(会長)

施設案内については、開館当初は絶対必要だと思う。利用者も I C システムの使用方法が分からないと思う。

自由参加にしたら、多く集まる日と全然集まらない日が出てくると思うので、ある程度は当番を決めたほうがいいのではないか。

(委員)

どのくらいサポーターが必要になるのか。

(事務局)

あくまでも基本的には機器の取扱い方などは職員の仕事となるが、サポーターの方には、施設案内サポーターとして参加していただけたら大変ありがたいと思う。

(委員)

開館当初は、混雑が予想されるため、サポーターの方に協力してもらい、運営していただけたらいいのではないか。

(事務局)

市民と協働して新図書館を盛り上げていくことは必要だと思う。

(委員)

開館当初は当番制として、落ち着いてきたら自由参加にしたらいいのではないか。

(委員)

開館が夏休み前のため、開館後には学生をはじめとしてかなり混雑すると予想される。最初の数か月はみんなで協力して運営していただけたらいいと思う。

(事務局)

サポーターの参加については、強制的にはしたくない。

(会長)

応募されるときには、みんなボランティアと分かって応募しているので、なにかお手伝いしたいという気持ちで参加していると思う。

(委員)

私たちの図書館であり、私たちサポーターみんなで盛り上げていこうと思うので協力していただきたいということによいのではないか。

(事務局)

読み聞かせは、2つのパターンの併用と、施設案内については当初とそれ以外の方法を変えるように提案していただいたので、そのように対応したい。

(会長)

では、返却本の配架について、意見をいただきたい。

(委員)

サポーターの参加について図書館を利用するタイミングという表現が難しいと思う。

(事務局)

その表現は変更する。

(会長)

子どもの見守りについて、意見をいただきたい。

見守りと学習支援の2つに分けたことについては問題ないと思う。

学習支援の件について、意見をいただきたい。

(委員)

学習支援のサポートについて、具体的な内容を聞きたい。

(事務局)

基本的にイベント形式での開催を予定し、スタジオを特定して宿題や勉強を教えてもらいたい人の募集を行いたいと思う。

学習支援サポーターは、そこで子どもを見守り、子どもから分からないところを聞かれたら教えるスタンスで、塾のような形式は想定していない。あくまでも子どもが勉強しているところのフォローを考えている。

(委員)

学習支援のサポーターには研修はないのか。

(事務局)

研修の予定はない。

(委員)

年配の方と現在とでは学習の仕方や学校の教え方が違う。

学校では、学校の先生が夏休みに勉強会をしたりしている。

学校とは、教え方が少し違うことを知らせたうえで参加する子ども対象ならいいのではないか。

(委員)

子どもにうそを教えるはいけないと思う。

サポーターの人に教えてもらって、テストで間違いとなるとみんなが嫌な思いをすることになる。見守りだけのほうが良いと思う。

(委員)

利用する子どもたちに学習する場所を提供するスタンスでいいのではないかな。

(事務局)

子ども見守りと学習支援については分けられないほうが良いのか。募集の際に学習支援のみに丸を付けておられる方もいたのでこのように分けて提案した。

(委員)

サポーターの中では、教えたい人もいると思う。

(事務局)

過去と現在では教え方が違って、この教え方が正しいかどうか分からないということであれば、夏休みのイベントとして行うべきか抵抗を感じる。

(委員)

読書感想文とか自由研究であれば問題ないと思う。

(会長)

塾に行っていないくて、勉強を教えてもらいたい人もいると思う。そのような子にはその場を与えてもいいのではないかなと思う。

居てもらって、聞きたい人は聞いていいよというスタンスでいいのではないかな。

(委員)

受ける側がどのように思うかが重要だと思う。

(委員)

子どもが良いのであれば問題ないのではないかな。

(会長)

図書館に行って勉強はするが、勉強を教えて欲しいという子は少ないような気がする。教えて欲しい子にはサポートしてあげたいと思う。教え方が下手でもその子にとって分かりやすくなるのであればいいと思う。

(委員)

塾ではなく、あくまでもボランティアという前提なので理解してもらいたい。

(会長)

また、今後は山口大学など大学の教育学部の生徒に、学習支援のサポーター募集の案内をして、来てくれる人がいれば、ボランティアで支援してもらえるように考えてもいいのではないかな。

(事務局)

学習を見守るという表現に変更したいと思う。学習見守りと子ども見守りは分けたほうが良いかな？

(会長)

いままで通り、子ども見守りは残して、説明会時にサポーターの判断でどちらかを選択してもらおうようにしたらどうか。

(事務局)

では、子ども見守りと学習支援は、1つの枠とする。

(会長)

イベント運営について、意見を伺いたい。

参加形態は、個別に案内となっており、イベント開催時に募集をかけるようになっている。

(会長)

意見がないようであれば、次は図書館美化について。これも個別に声掛けを行う。

(会長)

次は、研修についてだが、読み聞かせ研修は任意、施設案内と配架は必須。それ以外は研修なしという形となる。

(会長)

遵守事項については、前回から変更なしとなっている。

(委員)

読み聞かせの研修が任意となっているがいいのか。

(会長)

前回の話から任意となっている。

(委員)

開館後に講演会を予定しているのか。

(事務局)

開館後には、一年をかけて講演会などを検討していきたいと思っている。

アイデアはいろいろといただきたいと思っている。

(事務局)

ただし、スタジオの大きさがあるので、その規模に応じた開催となる。また、作品の展示なども行えるのではないかと思う。

(会長)

では、以上で終了する。

(5) 閉会